

平成 29 年 11 月 7 日

一年生大会抽選会

第 4 2 回沖縄県高等学校野球 1 年生大会確認事項

(1) 試合のインターバルについて

- ①大会初日のコザしんきんスタジアムについて：3 試合が組まれているが、練習会場があるため、試合のインターバルを 20 分とする。第 1 試合はシートノックを行うが、2 試合目以降はシートノックを行わない。ベンチ入れ替え後、キャッチボール、サイドノック（内野ベンチ前）を認める。
- ②大会初日の具志川球場について：3 試合が組まれているが、サブグラウンドが使用出来ないため試合のインターバルを 30 分とする。第 1 試合はシートノックを行う。2 試合目以降はシートノックを行わず、ベンチ入れ替え後に外野でのキャッチボールとペッパー、ベンチ前でのサイドノック、外野ノックを認める。
- ③大会初日の西崎球場について：2 試合が組まれているが、練習会場がないため、試合のインターバルを 40 分とする。ベンチ入れ替え後、外野でのキャッチボールとペッパーを行い、シートノックに備える。第 1 試合、第 2 試合とも通常通りシートノックを行う。
- ④雨天や試合進行状況により、変更もあり得る。

(2) 試合運営について

- ①ダッグアウトは、全試合抽選番号の若い方を一塁側とする。
- ②運営補助員は、当該校の 2 年生を原則とする。当該両校の部長は当日までに役割分担を連絡調整の上、確認しておくこと。
- ③ 5 回、9 回終了後の整備は、大会役員で補助員を指揮する。試合後は、当該両校部長にて指揮すること。
- ④シートノックの際、補助の選手も試合用のユニフォームを着用すること。

(3) 雨天・降雨コールド、延長について

- ①得点差によるコールドは、通常の大会同様とする。決勝戦は適用しない。
- ②雨天、降雨コールドは、5 回から適用する。決勝戦は適用しない。試合開始の判断については、通常の大会と同様とする。
- ③今大会は、1 年生としての体力、日程消化も考慮した上で、タイブレーク制度を採用する。タイブレークは 10 回無死 1・2 塁からとし、打順は選択制とする。10 回開始前に両チームの選択打者を確認する。以降に延長回が続く場合は、継続打順とする。代打、代走は認められる。決勝戦はタイブレーク制度を適用しない。

参考

春季九州大会 13 回より、無死 1・2 塁で開始。打者は選択制。

【高校野球特別規定】2015 年版 p3-4

15. タイブレーク制度の採用について

～ 硬 式 ～

平成 27 年度の春季地区大会では、タイブレーク制度を採用する。その他、春季都道府県大会と秋季地区大会および同都道府県大会では、主催連盟が各大会前に参加校に周知したうえで、タイブレーク制度を採用することができる。ただし、選抜高等学校野球大会ならびに全国高等学校野球選手権大会および同 地方大会ではタイブレーク制度は採用しない。

～ 軟 式 ～

春秋地区大会および同都道府県大会ならびに全国高等学校軟式野球選手権地方大会（都道府県大会含む）では、主催連盟が各大会前に参加校に周知したうえで、タイブレーク制度を採用することができる。ただし、全国高等学校軟式野球選手権大会ではタイブレーク制度を採用することとし、12 回終了時に同点の場合 13 回からタイブレークを開始する。「タイブレーク 導入開始回」以外については次の「タイブレーク規定」に準ずる。タイブレーク制度の運用は以下の規定通りとする。（規則 4.10）

▽ 「タイブレーク規定」

(1) タイブレーク導入開始回について

(A) 9 回終了時に同点の場合、10 回からタイブレークを開始する。

(B) 12 回終了時に同点の場合、13 回からタイブレークを開始する。

主催連盟が(A)、(B)のいずれで実施するかを選択するものとする。

(2) 無死、走者 1、2 塁の状態から行うものとする。

(3) チームは、タイブレーク初回の攻撃を開始するにあたり打順を選択することができるものとする。(次回以降は前イニング終了後からの継続打順)

① 両チームは事前に配布する「選択打順申告用紙」にタイブレーク初回となるときの「先頭打者氏名」「1 塁走者氏名」「2 塁走者氏名」を記入する。

② この場合の 2 人の走者は、前項の先頭打者の前のものが 1 塁走者、1 塁走者の前の打順のものが 2 塁走者となる。

(4) タイブレーク開始前に両チームの主将は本塁上に集合し、記入済みの「選択 打順申告用紙」を球審に提出し、審判委員と両チーム主将が確認する。これ以降で、守備側の選手交代およびポジション変更、攻撃側の代打および 代走は認められる。

(5) 延長回に入り、降雨等でやむなく試合続行が不可能になった場合は引き分け再試合とする。

- (6) タイブレーク開始後、15 回を終了し決着していない場合はそのまま試合を続行する。ただし、一人の投手が登板できるイニング数については 15 イニング以内を限度とする。
- (7) 決勝戦は、原則としてタイブレーク制度は適用しない。

※ 「明治神宮野球大会」と「国民体育大会（硬式・軟式とも）」では、両大会のタイブレーク規定を適用する。

▽ 公式記録の取り扱い

- (1) チームおよび個人の記録は、すべて公式記録とするが次項以下に掲げることは留意する。
- (2) 投手成績
  - ① 規定により出塁した 2 走者は、投手の自責点としない。
  - ② 完全試合は認めない。
  - ③ 無安打無失点試合は認める。
- (3) 打撃成績
  - ① 規定により出塁した 2 走者の出塁記録はないものとする。ただし、「盗塁」「盗塁刺」「得点」「残塁」等は記録する。
  - ② 規定により出塁した 2 走者を絡めた「打点」「併殺打」等はすべて記録する